

遠野

市議会だより
2009.1.31

NO. 14

あけましておめでとう



まこやが・さんぽ

青笹保育園

あけましておめでとうございます。

今年は丑年です。牛はゆっくり一步一步進む努力家で、困難や苦しいことに立ち向かう力があるとされています。

子供たちも少しずつ、健やかに伸び伸び成長してほしいと思います。

(琴畑 美智子園長)

主な内容

11月臨時会
12月定例会
1月臨時会

- 期待される行政組織再編
- 厳しさ増す雇用情勢
- 中学校再編成調査特別委員会設置される



議長あいさつ

遠野市議会議長
かわの よしのぶ
河野 好宣

明けましておめでとうございます。

丑年の新春を皆様と共に迎えることができましたこと

を心よりお慶び申し上げます。とは申し上げましても昨年以來、米国の金融破綻に端を發しました世界的金融危機の大波をかぶり、国民生活は企業の人員削減・物価の高騰をはじめ、かつてない程の厳しさの真ただ中に立たされております。

本市におきましても、中学校の再編成計画・食育センター・中心市街地の活性化・農畜林業の振興をはじめ、課題が山積しております。私ども議会も、より厳しい目でのチェックと希望の持てる提案をして参ります。

厳しい年が予見されますが、市民の皆様には幸多かれとお祈りし年頭のご挨拶といたします。

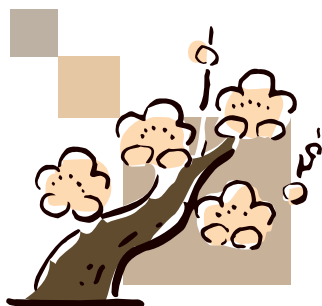
11月臨時会

平成20年第6回臨時会が11月4日に開催されました。下記議案を原案のとおり可決しました。

その中の平成20年度遠野市一般会計補正予算（第4号）では、冬のぬくもり応援事業のほか、地域ICT遠野型健康増進ネットワーク事業について活発な質疑が交わされました。

議 案

- 平成20年度遠野市一般会計補正予算（第4号）



12月定例会

平成20年第7回定例会を12月5日から12月12日までの8日間開催しました。

一般質問には8人の議員が登壇。行政組織再編等の問題について活発な質疑が交わされました。

今定例会では、提案された条例等の制定14件、平成20年度補正予算関係5件の全議案19件を審議し、原案どおり可決しました。

また、最終日には請願1件を採択、議員発議による意見書2件を可決しました。

議 案

- 遠野市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の制定について
- 遠野市行政組織条例の一部を改正する条例の制定について
- 遠野市立図書館条例の制定について
- 遠野市立博物館条例の制定について
- 遠野市ケーブルテレビジョン放送施設条例の一部を改正する条例の制定について
- 遠野市長期継続契約を締結することができる契約に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 遠野市市税条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例の制定について
- 遠野市宮牧野条例の一部を改正する条例の制定について
- 遠野市堆肥センター条例の制定について
- 遠野市営住宅条例及び遠野市営特定公共賃貸住宅条例の一部を改正する条例の制定について
- 岩手県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更の協議について
- 平成20年度遠野市一般会計補正予算（第5号）
- 平成20年度遠野市介護保険特別会計補正予算（第2号）
- 平成20年度遠野市ケーブルテレビ事業特別会計補正予算（第2号）
- 平成20年度遠野市下水道事業特別会計補正予算（第2号）
- 遠野市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について
- 遠野市中小企業振興資金融資あっせん条例の特例措置に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 平成20年度遠野市一般会計補正予算（第6号）
- 人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて

討 論

遠野市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の制定について

〔反対〕

小松 大成 議員

議案 97 号条例制定は、教育三法の地方教育行政法の特例により、文化に関する事務を教育委員会から市長へと変更しようとするものである。一見合理的な行政手法と思われるが、国会の場でも議論されたように、地方自治体の首長を通じて教育分野である社会教育に、国家権力の干渉を招きかねない危険性を伴うものであり、本条例案に反対する。

〔賛成〕

浅沼 幸雄 議員

国では今年度、自治体が新たな町づくりに取り組む際に、市長部局が文化も含めた総合的な施策を展開することにより、より大きな力となり得ることができるよう、法改正を行った。市では、その趣旨を理解し、今回の条例提案となったものと思う。加えて「遠野物語発刊 100 周年記念事業」とも併せ、新たな町づくりの出発点となることを期待し、賛成討論とする。

1月臨時会

平成 21 年 1 月臨時会が 1 月 9 日に開催され、下記議案を原案のとおり可決しました。

その中の平成 20 年度遠野市一般会計補正予算(第 7 号)では、遠野市地域連携型緊急雇用創出事業について質疑が交わされました。

また、議員発議による遠野市立中学校再編成調査特別委員会の設置を可決しました。

議 案

- 平成 20 年度遠野市一般会計補正予算(第 7 号)
- 遠野市立中学校再編成調査特別委員会の設置について

- ・遠野市立中学校再編成調査特別委員会の委員長及び副委員長の選任
委員長 新田 勝見 議員 副委員長 佐々木 譲 議員
- ・委員会設置の目的
- ・議会として市民からの声を幅広く聞く機会を設け、これからの中学校のあり方、生徒の教育環境、地域のあり方等、中学校再編成がどうあればいいのかを検証し、今後の議会活動に反映させることを目的とする。

職員の不祥事の再発防止を



菊池 民彌 議員

【質問】相次ぐ職員の不祥事に対する市の対応について伺う。

【市長】公金の不適正取扱いを発見できず残念だ。職員の法令遵守等意識の高揚等に努め、モラルの向上、チェック機能強化で再発防止に全力を挙げ、信頼回復に努める。

【質問】平成 21 年度の市財政の見通しについて伺う。

【市長】健全財政の取り組み強化によるスクラップ・アンド・ビルドの徹底等を予算編成の重点にして取り組む。世界的経済不況は、本市にも影響が現れている。中小企業融資枠拡大のため補正予算を今議会に提案する。市税の見通しでは、法人市民税及び固定資産税の減が見込まれ、前年対比で 5%、金額で約 1 億円程減少する見込みである。市長選は、年度半分を過ぎる 10 月に予定されている。当然骨格予算でなく、通常予算を編成する。

【質問】スポーツ健康都市の宣言について提言したいが。

【市長】スポーツ健康都市の宣言、発信は必要と捉えている。遠野らしさ、遠野にふさわしい発信の仕方、方法をよく考え、関係団体と連携を図り進めたい。

【質問】全国学力テストの実施結果について伺う。

【教育長】市内の小 6、中 3 のテスト実施結果については、小 6 は国語、算数 A・B とも県の平均を下回った結果となっている。なお、県の平均は全ての項目で全国を上回っているが、その中で遠野は全国と比較し上回っているのは国語 A のみであり、他は全国を下回り、特に数学 A は全国・県との差が大きく、市としての課題と捉えている。市の平均は、小 6 の国語 A・64.7 点、B・49 点、算数 A・72.4 点、B・48.8 点。中 3 の国語 A・74.8 点、B・60.7 点、数学 A・56.8 点、B・47.3 点となっている。



▲スポーツ少年団の少年たちの活発な活動風景

積極的な農業振興策は



浅沼 幸雄 議員

【質問】市内で生産される農産物の信頼性向上のため、農家や農業生産法人にJGAP認証推進の考えはないか。又、農業特産物の振興策は。

【市長】JGAPについては、JA野菜生産部会レタス班の有志が数年前から取り組んでいる。又、今年度からミニトマト「遠野レッド」も取り組みを開始した。消費者の信頼

を確固たるものにするため、この活動を継続、着実に推進拡大していくことが重要と考える。特産品の振興については、タラの芽は、面積・販売額ともに着実に増加している。冬場の雇用・所得確保に有望な品目であり今後力を入れていく。ブルーベリーも同様に着実に伸びてきており、今後さらに企業と農家等の共通認識を高めながら、情報交換、栽培技術の向上を推進し、遠野ブランドとして全国の消費者から認知されるよう支援を行う。山ぶどうは、平成17年度から面積は変わっていないが、19年度に販売した「遠野産山ぶどうワイン」が好評で、20年度は原料の山ぶどうの買い取り価格もアップし、21年2月には2,500本の販売を予定している。

【質問】現在進められている中学校再編成計画によると、宮守地区に設置される中学校の規模が小さく、将来的にまた再編が必要となることが予想される。その対策として西の玄関口である宮守町岩根橋や下郷地区に市営住宅を建設して市外からの転入を促進し、生徒数の増を図る考えはないか。

【市長】市営住宅の新設については、高規格道の利用形態、設置場所に対しての転入者のニーズ、遊休施設の跡地利用等も勘案して進める。

【その他の質問】「遠野物語」発刊100周年記念事業について

※JGAPとは…日本版GAP(適正農業規範)の略称



▲農家の所得向上が期待される農業特産物

遠野ハートフルプラン2009計画について



菊池 充 議員

【質問】2006計画が3年を経過しようとしており、新たな計画を策定することとなっているが、今日的な新たな諸課題や多様化する住民需要に対しどのように取り組もうとしているのか、次の3点について伺う。在宅福祉政策について、在宅介護における虐待は全国的な問題となっており、その対策としてのショートス

テイやデイサービスの受け入れ体制の充実について。地域福祉政策について、いきいきサロンのような地域で支え合う仕組みが必要と考えるが、人材の育成と確保を含めたこれからのあり方について。施設福祉政策について、在宅介護とともに施設介護は重要な課題であり、かつ遠野市の特別養護老人ホーム待機者189人の現状を踏まえ、介護施設のあり方と今後の整備計画の内容について。

【市長】虐待が起こる要因としては、認知症に対する理解が不十分であったり、在宅介護者の介護疲れが考えられる。ショートステイやデイサービスのより効率的な活用などを図り、介護者の介護疲れの解消を図る事業として実施している家族介護者交流事業については、更に介護者がリフレッシュできる場の事業の充実を検討する。いきいきサロンについては、事業の実施主体である社会福祉協議会と協力して地域ボランティア活動の推進によりサロン運営の人材確保を図るほか、介護予防活動への講師の派遣を行っていく。現在の介護保険制度では施設系介護施設を増やすことは、介護保険料の増額に直結する仕組みとなっている。遠野ハートフルプラン2009計画は、市民の意見や提言を計画に反映させるために委嘱した17人の委員による策定委員会での協議中である。施設整備についてはニーズを把握しながらこの協議結果を踏まえ検討する。



▲ふれあいホーム薬研淵での小正月風景

市内中学校再編に関わる諸課題について



佐々木 謙 議員

【質問】市内中学校再編計画は少子化対策なのか。

〔教育長〕議員が小規模校の良さを評価するように、私も小規模校が現状の指導体制や部活動・集団活動、さらには地域の支援協力等で成果を挙げていると認識している。しかし、生徒の一人当たりの役割が多くなり負担も多く、生徒一人一人の個性を生かし伸ばす能力を引き出すことを考えたとき、重大な課題と考える。

ばす能力を引き出すことを考えたとき、重大な課題と考える。

【質問】中学校の体育系クラブ活動に対する見解は。

〔教育長〕県中学校体育連盟が、小規模校の参加を認めるため、合同チームを地区内で組織し参加する事を認めている事は承知している。遠野でも昨年度は附馬牛と小友が、本年度は附馬牛と土淵が合同チームを作り、野球の新人戦に参加している。条件が合えばだが、現状では他のクラブでは困難な状況である。各校のクラブ設置が生徒数により同一化できない現状にあるからだ。即、合同チームをと求めても現状では練習することに多くの時間と負担が必要となる。であるから再編成によって、各校同様のクラブ設置可能を目指す。

【質問】現在までの住民説明と今後の進め方について。

〔教育長〕7月23日の教育委員会委員協議会において「統合形態、学校数、学区設定及び校舎位置」の原案をまとめ、7月30日から地区別に小中PTA及び市民説明会を開催してきた。参加者は原案説明に641名、小中PTA説明会は238名の参加があり、今後も丁寧に進める。この再編で中学校がなくなっても、地域には中学生がいる。今後は3校の学区単位に「学校づくり協議会」を設置し、新しい学校づくりを協議・検討する。今後も説明会を続け、市民の支持を得るよう努める。



▲遠野市立中学校再編成計画案説明会のようす

雇用促進住宅存続を求めよ



小松 大成 議員

【質問】政府は追加経済対策として総額2兆円の定額給付金を年度内に配布しようとしている。しかしその補正予算案も示されないまま事業だけは実施するといった異常な政治状況にある。この事業施行に当たっては市もその施行主体となるが市長の見解は。

〔市長〕定額給付金として市内全世帯で約4億9千万円

もの資金が給付されるが、「山積する課題解決に重要な財源を充てるべき」であるとの考え方から、この制度は評価しない立場を表明している。この事業実施においては、短期間に多くの業務が予想されるが、市民生活が混乱することのないように対応する。

【質問】雇用促進住宅居住者に対し、雇用能力開発機構より貸与契約を更新しない旨の通知を受け、動揺している居住者が少なくない。全国的にも大きな問題となっており、危機感を強めた自治体は国に対し存続を求めるなどの行動を起こしているが、市の取り組みは。

〔市長〕雇用促進住宅の廃止に関しては国の政策に基づくものであり、市では住宅の存続に係る要望等、国への働きかけはこれまで行ってない。今後関係団体と連携し、入居者の不安軽減のための国への要望活動等の行動を起していきたい。

【質問】近年畜産農家に致命的打撃を与えかねない伝染病が市内でも確認されている。清浄化に向け関係機関は努力しているものの、泥縄式状況と言わざるを得ない。市の家畜防疫体制はどのようなものか。

〔市長〕当市の家畜防疫事業は、法定検査のほか牛白血病検査の実施、各種研修会などに支援を行っているが、現在設置を検討している(仮称)畜産総合センターを防疫の中心に位置づけ、防疫体制のマニュアル化の策定が必要と考える。



▲存続が求められている雇用促進住宅

経済危機の中での雇用対策を



菊池 巳喜男 議員

【質問】大府市との災害時の相互援助体制は。また、交流の中で、産直施設「げんきの郷」に当市の特産物の出荷や市職員の長期派遣型相互交流は考えないか。

〔市長〕有事の際は、情報を互いに共有し、連携の中でそれぞれが持っている資機材やマンパワーなどを活用し、支援しよう。特産物の販売は

JA花巻も出荷しているルートを活用し、遠野の特産物の販売や産直同士の繋がりが持てるように展開し、また、職員交流については総合的に判断したい。

【質問】世界的金融危機の中、当市の雇用状況にも影響が出始めているが、現在の状況と高卒予定者の就職状況は。一方、過疎法は産業振興と雇用の創出など重要なものがあり、市としてどう繋げていくか。

〔市長〕市内企業でも非正規雇用者の人員削減があり、情勢は厳しい。また、来春の市内の高校卒業予定者は267名で、うち就職希望者は96名、内定者は85名、うち27名が市内企業に内定、現時点での内定取消情報は得ていない。過疎法については、所管する総務省に設置された過疎問題のメンバーでもあり、新過疎法制定に向け活動していく。

【質問】特別養護老人ホーム入所待機者が当市では189名と報道され、今後も増加傾向が考えられるが対策は。

〔市長〕当市の将来推定高齢者人口では、平成42年でも9千人と変化はないが、人口減少により介護を支える市民が減少するとの予測もあり、今以上の支援施設が必要と推定される。現在、遠野ハートフルプラン2009計画が検討委員により協議されているので、結果を待って検討を加えたい。

【その他の質問】釜石自動車道整備について

県立遠野病院の現状について



照井 文雄 議員

【質問】ベッド数の削減が話題になっているが、三陸沖地震に備えても常駐の整形外科医が必要であると考えるが当局の見解は。

〔市長〕医師不足の中における病院の集約化や再編は、遠野市にとっても重要な課題である。その中でも12月1日に内科医の着任を頂くことができた。来年の4月には、

新たに整形外科医と内科医の常駐医2名の準備を進めているところである。医師の招へい活動は院長をはじめとするスタッフと、市民医療整備室のスタッフが休日を問わず努力している。また市内唯一の救急患者受け入れ施設でもあり、24時間・365日フル稼働勤務である。医師をはじめ医療スタッフと患者との関係を良好に保ち、相互理解と信頼関係のもと、病気やけがの治療に専念していく環境づくりが大切である。

【質問】遠野市の交流人口が年々増加しているが、現状と今後の方向性と対策は。遠野市の子供たちの体験学習の機会をもっと増やすべきではないか。

〔市長〕この数年、農泊による農業体験を柱とする体験型教育旅行が多くなり、今年度は千葉県船橋市の中学校から延べ708人を受け入れた。また、ふるさと村での体験型旅行者数も19年度は3,829人であった。当市は今年度農水省、文科省、総務省の3省合同による「子供農山漁村交流プロジェクト」の先導型モデル地域として採択を受け、宮守小学校の児童が附馬牛と松崎の農家で貴重な体験活動を行なった。今年度の取り組みを踏まえ、遠野市ならではのプロジェクトになるように内容充実を図りたい。グリーンツーリズムの課題等には確実に対応し、NPO法人や関係団体と連携を深め充実を図りながら、特色あるツーリズムの推進に努めたい。



▲速やかな対応が求められている雇用等相談窓口



▲市の医療拠点県立遠野病院での待合室風景

真に魅力のある遠野市に



新田 勝見 議員

【質問】 民間のシンクタンクの調査によると、我が遠野市は地域の魅力度が県内トップであり群を抜いている。一方、市民所得は13市の中で下から2番目であり、県内の平均値より約40万円低い195万6千円である。現在不況に突入し厳しい社会状況にあるが、市として何を、どのようにして市民所得の向上を図

っていくのか。第1次産業においては、アストを中心に振興を図っているが、市における分配所得はわずか3.1%にすぎない。第2次、第3次産業の雇用の確保なども含めた活性化策を推進し、真に魅力ある遠野市を構築することが大切であると思うが。

【市長】 全産業において強化の必要がある。アストを核として、農業生産力の向上、所得の向上を図っていく。第2次・第3次産業については、厳しい経済情勢の中、誘致企業だけではなく地元企業への支援拡充を行い、雇用の場の確保に努めている。

【質問】 検討委員会から3校案4パターンの答申を受け、教育委員会では計画案を設定し、各地区への説明会を実施している。市民からも多くの意見を伺っているが、私としては3校にするという案であればある程度的人数的にも同規模でバランスのとれた3校にすべきと思うが。

【市長】 検討委員会で出された意見等を整理した9つの視点でまとめた。学校数3校については、学校間の交流や切磋琢磨、地域性や通学距離が考慮されている。単にバランスだけでなく、生徒数の減少に伴う課題に一定の改善が図られるとともに、既存校舎の有効活用ができ、学区の歴史、学区の越境などの地域性を考え、全体として最も妥当性のある学区設定と判断している。説明会において、誠心誠意取り組んでいく。



▲若者が夢をもてるような魅力あるまちづくりを

予算等審査特別委員会 12月10日~12月11日

予 算等審査特別委員会(議長を除く21人の議員で構成、委員長菊池民彌議員、副委員長浅沼幸雄議員)は、条例等13件、予算5件の18議案について付託を受けて2日間の審議を行いました。

今定例会では20年度の補正予算と、遠野市行政組織条例の一部を改正する条例の制定や、中学校再編計画等について活発な質疑が交わされました。その結果、全18議案が原案のとおり可決されました。

文化行政の市長部局への移行について

【質問】 元来、教育委員会にの任務として公教育に関する部分も法制化されている。今回の条例改正により図書館・博物館が市長部局に移ることになるが、今まで教育委員会が果たしてきた公教育に対する関わりはどうなるのか。

【答弁】 国の法律の一部改正により、スポーツ・文化に関する事務の弾力化については、「条例の定めるところにより、地方公共団体の長がその事務を所掌することができる」となった。市ではそれを受け、文化行政の一部に関しては市長部局に移し、一元的に所掌し、教育委員会とも連携を図りながら、より総合的に推進しようとするものであり、それ以外の学校教育や生涯教育については、今まで通り何ら変わることはない。

行政組織再編のあり方について

【質問】 来年4月からの行政組織再編は、市民に本当に分かりやすい組織再編なのか。

【答弁】 市民にもわかりやすい組織づくりを一つの方向性として確認して提案している。

【質問】 今度は農業活性化本部に林業振興室を新設することのだが、どういった形になるのか。

【答弁】 農林振興課の中に係としてあったものを、今度は農業活性化本部内に林業振興室として位置づけるものである。その事務所については変わらない。

【質問】 農業と林業はつながっており、市民が用件を済ませるには、1ヶ所にあったほうが利便性もいいのではないか。

【答弁】 そういった不便さはあるが、農業活性化本部の部長に所掌させようとするものである。



▲耕畜連携の拠点となる堆肥センター



▲ごみ分別の市民学習会の様子

見直しが急がれる行政事務処理

堆肥センターの運営について

【質問】 堆肥センターの運営が市で行われることになる訳だが、ふん尿が雨などで流出したりする場合もあると思うが。

【答弁】 堆肥は産廃であるから今までは指導する立場だったが、これからは自ら運営にあたるので、事故のないようにやっていく。

【質問】 堆肥が今までより安く農家に供給できるということは、喜ばしいことである。条例には、指定管理者に委託できるとなっているが、現在働いている人が管理者になるのか、あるいは公社などに委託になるのか。又、管理料の考え方は。

【答弁】 産廃であるので産廃の許可を取らなければならないので、個人では無理であり、畜産振興公社になるのか、花巻 JA になるのかは、これから検討していきたい。管理料についてもこれから検討する。

狂犬病予防接種について

【質問】 狂犬病の予防接種率は 100% か。

【答弁】 登録は 2,100 頭で、1,800 頭余りに予防注射を実施した。

【質問】 約 300 頭弱が未接種であるが、未登録の犬も含めればかなりの頭数になる。防止対策は。

【答弁】 予防接種は春秋年 2 回、103 会場で実施した。今年未接種であった飼い主のすべての方々に葉書や広報等により、予防接種を受ける周知した。

【質問】 法定伝染病対策で、予防接種をどうしても受けない場合の罰則規定は。また、現在まで罰則が適用された事例は。

【答弁】 罰則規定は 20 万円であるが、市内では罰則適用は把握していない。今後も飼い主に登録をしていただくように、啓発しながら実施をする。

ごみの有料化について

【質問】 補正予算の中で、ごみ処理施設運営費 4,900 千円増の要因は。

【答弁】 清養園クリーンセンター運営で燃料費高騰による、油代・電気料の経費の増加によるものである。

【質問】 ごみの増加による経費の増ではないようだが、将来市としては他市に見られるような家庭ごみの有料化は考えていないのか。

【答弁】 家庭ごみの有料化は、ごみが減らせないときの手段であるが、当市のごみは市民の皆さんに分別していただければ、ごみの処理量が減るという効果があるので、昨年から説明会等で減量を呼びかけている。また、事業系のごみも更なる分別化を進めれば、ごみが減るという事があるので、当面は有料化を考えずにこれらの手法で減量を中心に目指していく。

企業等の農業参入について

【質問】 遊休農地の解消や、一次産業発展の為に企業等の農業参入にはある程度理解を示すが、大規模畜産経営等の企業参入には、住民の理解を得ながら進めなければならないと思うがどうか。

【答弁】 環境公害や地域の同意等クリアしながら進めなければならないと考える。

【質問】 農業特産物であるブルーベリーについての企業参入は、既存の民間仲業者に加えて、大規模な面積を経営する企業も参入を開始したが、市として調整の必要はないか。

【答弁】 ブルーベリーは有望な農業特産品と考えている。現在市内には二社の企業参入があるが、それぞれの特徴を生かしながら、遠野がブルーベリーの森となるよう市としても調整しながら推進する。

校舎の維持管理について

【質問】綾小体育館の雨漏り補修工事が3年前から問題となっているが、補修の実施状況は。

【答弁】雨漏り調査を実施した。原因を突き止める事が難しい。原因を究明しながら修繕に対応したい。

【質問】確かに雨漏りの原因確認は難しいと思う。現実には風雨等の激しい時はバケツも置いている。原因を究明して早く実施すべきと思うが。

【答弁】もう一步進んだ確認調査をしたい。

【質問】日常的に学校には管理する人がいると思うが、学校長と教育委員会が維持補修のための意志疎通を図っているのか。

【答弁】校舎の維持管理は当然の事ながら、必要な財源を確保して、学校施設管理者と学校長の意思の疎通をはかり、対応している。

市内中小企業対策は大丈夫か

【質問】米国発の金融危機で日本にも影響が及んでいる中、この予算範囲で大丈夫か。

【答弁】その通りで、年末年始で資金需要が増える予想の中、20億円の融資枠を用意し、3月末まで推移を見ながら対応をする。制度融資は、これ以外のももあるので、不足時は他の融資制度を紹介したい。

【質問】国の緊急保証制度についても商工関係者に周知できる形が必要と思うが、対応窓口は。

【答弁】セーフティネット保証は、産業振興課が対応する。基本的には金融機関経由で相談されるケースが多いが、直接相談されることもあるので、引き続き相談も受け付け認定もしていく。

【質問】なかなか貸付を受けられない実態もあるが。

【答弁】貸付については、金融機関の判断を踏まえた対応である。



▲市内誘致企業のひとつ SMC の作業風景

行政事務処理状況に関する再調査について

【質問】行政事務処理状況調査本部による調査で、17項目の不適切処理が明らかになったわけだが、監査のあり方についてマニュアルを作るべきと思うが。

【答弁】定期・随時と監査があり、抽出による監査でしか納付書以外で納める現金の取扱いはチェックできない。しかも、それについてのマニュアルは無いので、しっかりとマニュアル作りを進めたい。

【質問】農業委員会の問題については事務処理の問題だと思うが、恒常的に行われていたのではないのか。何故こうなったのか。

【答弁】費用弁償についての引き継ぎが不充分であった。チェックの甘さについては弁明の余地が無い。この調査結果を踏まえて取り組んでいく。市民感情に対しても、謝罪して改善の方向を示していくしかない。職員は頑張っている。

【質問】職員は目一杯仕事をしている。このような状況の中で不適切処理が起きるという事は、業務のマニュアルがしっかりとしたものになっていないという事ではないのか。前回の質問でも、「今後検討する」という答弁だったが、原因が分かっているのに何故すぐに対応しないのか。

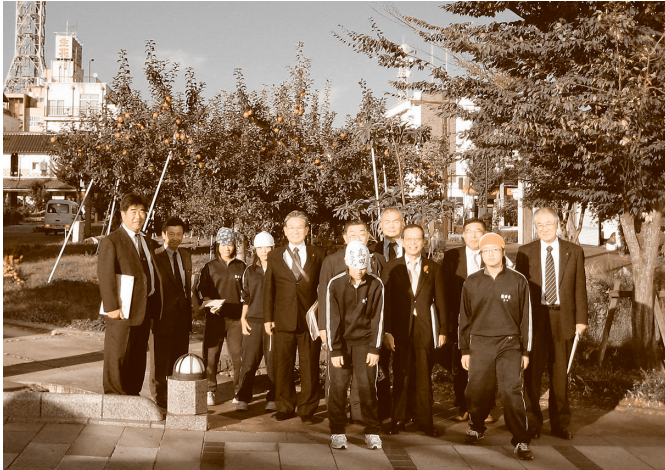
【答弁】そこが課題であると認識している。しっかりとマニュアルを整備したい。取り組みが遅いのはその通りであって、改善すべき事項ははっきりして来たので、調査本部で進行管理しながら、今年度中に公金取扱いのマニュアル、事務処理等を改善したい。

【質問】職員を指導・管理し、業務をチェックすべき幹部の皆さんがしっかりすべきと思うが、モラルの向上についてはどう取り組むのか。

【答弁】人材育成方針ということで職員の能力向上を目指し、コミュニケーションを図り、職員研修での法令遵守、公務員としての行動規範等の研修を進めたい。



▲早急な環境整備が求められる綾織小学校舎



▲りんご並木を自主管理している飯田市の中学生



▲年間 20 億円の売り上げを誇る「げんきの郷」

総務常任委員会行政視察報告

平成 20 年 10 月 8～10 日の日程で長野県において行政視察を実施した。小諸市では「小諸市ロハス政策」と「学校給食による地産地消の取り組み」の 2 点について、飯田市では、「自治基本条例」についてであった。

小諸市ロハス政策の「ロハス」とは Lifestyles Of Health And Sustainability の頭文字で造られた言葉で、健康と環境に配慮した持続可能な社会を目指した暮らし方を意味している。内容を聞いてみると、当市が現在実施している施策と類似しているものが多くあると感じたが、違いは政策の一部として明確にはっきりと位置づけられているかどうかの差であると思われた。この分野において、これからの当市の方向性を示すものと感じた。

学校給食では自校方式で、地産地消導入のきっかけは、安全性の最優先と地場産品を見直そうと教育委員会が中心となり、生産者・学校栄養士等で協議し、昭和 63 年 5 月から開始し、現在 20 年目を迎えており、地場産野菜の使用割合は 80 パーセント程度と高い数値となっている。当市が取り組んでいる総合食育センター構想の参考になるものと思われた。

飯田市の「自治基本条例」で特筆すべきと感ずるのは、自治基本条例にもかかわらず議員発議による条例制定であるという事と、制定までに 4 年という歳月をかけて議会内はもちろん、住民や行政当局とも十分に議論を重ねた結果であるという事であった。その 4 年というプロセスにより、議員の考え方が変わり、行政への各分野での働きかけやチェック機能の強化に繋がったという事であった。当議会でも大いに見習う必要性を感じた。

産業建設常任委員会行政視察報告

11 月 19～21 日まで、愛知県東海市、豊田市、大府市を視察した。

東海市では、遠野出身で矢橋工業名古屋事業部に勤務している小笠原信夫氏の紹介により、中部地域唯一の鉄の総合基地で、紙よりも薄い各種鉄板や電縫鋼管など、幅広く提供できる体制を整えている新日本製鐵名古屋製鐵所構内を研修した。

豊田市では、全国第 1 位の製造品出荷額等を誇る「クルマのまち」としてその名が知られている。トヨタ自動車本社工場では、工場の専任ガイドに従い、人気車種等の溶接・組立の各製造工程を見学した。従業員が工作ロボットと共同して働く効率的な生産ラインで、高品質な自動車が次々と生み出されていた。今、日本をはじめ世界で大きな産業機構の変革が始まっている。豊田市の産業も例外ではなく、このような問題を抱え、地域企業への既存産業振興施策の見直しを図り、その実現に向けて取り組んでいた。

大府市での主産業は、トヨタ自動車関連の愛三工業等の企業を中心に住友化学など金属や機械等があり、また、隣接している東海市や大都市の名古屋市のベッドタウン的性格も強い。農業では、「げんきの郷」の経営を中心に、生産量が県第 1 位の伊勢芋、2 位のたまねぎの生産が盛んである。畜産においても酪農部門と肉牛生産部門が盛んで、戸数が少ないが大規模で経営されており、安全で良質な農産物の生産のため、畜産農家と耕種農家が連携して、糞尿の堆肥化とその利用により、土づくりを推進するとともに、減農薬・減化学肥料農産物の生産拡大と認証制度を通じて、持続的農業を推進していた。

議会運営委員会行政視察報告

議会運営委員会では、去る11月18日に行政視察として一関市議会を訪問した。視察項目は、議会運営と一関市議会基本条例についての2項目である。

一関市は面積約1,133平方km、人口約12万3千人であり、平成17年9月20日に、一関市、花泉町、大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村の1市4町2村が新設合併した市である。

議会運営については、現在の議員定数は法定数は34人であるが合併特例法により41人で、平成21年10月8日までの任期であった。定数削減について平成20年9月議会で否決された。予算、決算は議長・監査委員（決算のみ）を除く特別委員会（4日間）に付託し、補足説明、総括質疑ののち、常任委員会単位の分科会を設置し所管に係る予算、決算を分割付託している。分科会では採択せずに特別委員会で採択するので、全分科会の議事録を特別委員会に報告しなければならない、しかも数日間ぐらゐの間に作成しなければならない。

議員数も多いので分科会審議も仕方ないかもしれないが、議事録の作成はたいへんな労苦だろうと感じた。

一関市議会基本条例については、1市4町2村の7市町村が合併し新市が発足したことから、議会の活性化に向けた取り組みとして平成19年1月に議会基本条例の制定検討を事務局から正副議長、正副委員長に要請して協議検討し、平成19年6月議員発議で可決された。事務局主導で短期間に制定したため議員個々の関心、意識がないため条例が生かされていないと感じた。議会の活性化よりも合併後の議会の平準化を事務局が求めたのではと思われた。



▲一関市役所での研修風景

教育民生行政視察報告

11月10日、秋田県大仙市立西仙北西中学校・大仙市立双葉小学校を視察した。秋田県では少人数学級を10数年前から実施しており、全国でも上位の成績を上げている。本市の中学校再編計画では、適正規模の学校として、1学年2学級以上を目指すとしており、少人数学級の学校を再編する案である。生徒一人ひとりに行き届いた指導がどのようになされているかを研修した。

どちらの学校も、小規模校だったが子供たちは明るく元気に学んでいた。特に西中は教員定数9名に対し、12名の教員が配置されていた。3年生40名が、20名ずつの能力別二つの学習集団に分かれ、授業を受けている姿を見学してきた。少人数であるから教師は一人一人が納得するまで丁寧に接していた。

美術科の免許教員はいないが、数学・英語を中心に複数の職員による指導が可能と話していた。学力向上対策として1年生18名、2年生31名は、数学・英語を中心に複数教員を配置している。3年生40名は、全教科を二つの学習集団（能力別）に分けて授業している。生徒の希望を尊重し、入れ替えもあるそうである。

学習のつまずきの原因をお互いに考え、発見している姿に感銘を受けた。生徒一人ひとりにきめ細やかな指導をしている姿に、秋田ならではの再確認することのできた視察研修であった。

議員談話室

議員として振り返って思うに、最初の議題はふるさと村

の審議で、これは三日にも及ぶ議題であった。議員の役目も大変な役目だとその時痛感させられた。ふるさと村に行くたびに思い出されるのは、ホテルの課題であった。市を二分しての運動の末にホテルが建設され、今日に至っている。ホテル効果もあっただろうが、反面同業者が経営に苦しみ、店を畳まなければならない業者があるのだ。現実として、当時の予算委員会での審議の中での答弁で、公金で作ったホテルと同業者が競うのが当然との当局の姿勢に、未だに納得がいかず、今でも心の隅に残っている。以後に出される大きな課題は、中学校の再編計画であろう。市当局が、いかにこの重要な課題に取り組むか。私もこの課題に心して取り組みたいと思う。

(伊藤 庄吉 議員)

請願審査報告

今定例会には1件の請願が提出されました。
委員会における審査及び本会議における議決結果は以下のとおりでした。

■介護保険制度の改善を求める請願

〔請願者 岩手県社会保障推進協議会長 高橋 八郎 外1名〕
《審議結果 採択》

議員発議案

今定例会には、2件の発議案が提出され、原案のとおり可決しました。可決した意見書は以下のとおり。

■協同労働の協同組合法(仮称)の速やかな制定を求める意見書

■介護保険制度の改善を求める意見書

意見書の送付

今定例会で可決した意見書2件は、平成20年12月12日付け、遠野市議会議長名で衆議院議長、参議院議長・内閣総理大臣・総務・財務・厚生労働・経済産業の各大臣あてに送付しました。

常任委員会報告

○教育民生常任委員会(10月15日開催)

- ・中学校再編計画に伴う委員会の対応について(12月8日開催)
- ・平成20年第7回定例会に提案する生活環境部及び健康福祉部が所管する平成20年度各会計補正予算について

○産業建設常任委員会(11月26開催)

- ・堆肥センターの活動について(12月8日開催)
- ・常任委員会の行政視察旅費について
- ・平成21年度所管事項に係る活動方針について

○総務常任委員会(11月26日開催)

- ・組織再編について
- ・税条例の改正について
- ・総務費の予算概要について



わたしのひとこと

人と人とのふれあいを大切に

小島田 絹子さん(上郷町)

私は2年前に職場を去り、今自分にできることに幾つかチャレンジしている。その1つが毎月参加する市主催のウォーキング大会である。

元旦にも仲間と市内の神社8カ所を11キロの道のりで歩いた。世が不況ならどこの神社も参拝者は多く見受けられた気がした。私も財布に小銭を入れ、かなわぬ位に願い事を託し手を合わせた。

私は去年の4月からこの会に参加している。10キロ以上ともなると一人では簡単に歩けない。同じ志を持った仲間がいるからこそ完歩できる。人と人とのふれ合いで歩くことの素晴らしさを知った。完歩できた後の心地よい汗はとても気持ちよく、来月の大会参加を掻き立ててくれる。だから、市にこんな素晴らしい会があることを皆に教えたい。

これからも出会いを大切に、今自分にできることを実行していきたいと思う。

3月定例会の予定

◆定例会は2月27日(金)開会の予定です。

詳しくは議会事務局まで。

○議会へのご意見、ご要望をお待ちしております。

議会事務局 62-2111(内線271)

gikai@city.tono.iwate.jp

■訂正

前号の議員発議案の表示に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

(誤) 過疎穂対策 (正) 過疎対策

編集後記

世の中の動向が、どんなに悪くても新しい年が明け今年もまた始まった。まずは新年おめでとうございます。

昨年一年間を表す漢字は「変」であったが、言い得て妙であると感じた。ただ、今年もそれを引きずるような気がしてならない。なぜならば新年には普通、夢や希望を抱くものであるが、今年はそのがないと感じたからである。この未曾有の生活難を、雇用不安を、経済危機をどう乗り越えるのか…。

人間は逆境の時にこそ、その真価が問われるという。又、逆境だからこそ見えてくるものもあると思う。本年を「逆境元年」と見据えた時、市民も、行政も、そして議会も、その底力を発揮し、真の意味で住民主体の地方自治への変換を図る絶好の機会であると捉えることもできると思うが、市民の皆さんはどう考えるであろうか。
(浅沼 幸雄 議員)